

特別プログラム 今後の療養病床に求められるリハビリテーション ～ 高齢者医療の中核～

【コーディネーター】 日本療養病床協会 リハビリテーション研究会

【主旨】

今回の診療報酬改定で、医療療養病床におけるリハビリテーションが日数制限のため施行しにくくなりました。効果の認められない長期間にわたるリハビリテーションに対しての対策であります。このような制度下では、院内リハビリの中心を医療療養病床から介護療養病床に移行して行う方法で対応している病院もあると思われます。しかし、今、しっかり考えなければ療養病床でのリハビリテーションはつぶれてしまいかねません。

リハビリテーション研究会が企画した特別プログラムでは、主題を「今後の療養病床に求められるリハビリテーション」、副題として「高齢者医療の中核」を掲げました。高齢者医療からリハビリテーションを切り離すことはできません。この京都大会の場で、あらためて高齢者医療のあり方を問い、現状の危機感の中でどのようなリハビリテーションをすべきなのかを考えてまいります。

【プログラム 9月8日(金)・9:30～12:00】

9:30～9:35 はじめに

リハビリテーション研究会 委員長 柴田勝博

9:35～11:00 プレゼンテーション(各20分)

橋本康子(橋本病院 理事長・院長)

「療養病床のあるべき姿」

土田昌一(在宅リハビリテーションセンター成城 センター長)

「在宅中心の療養病床からの報告」

中間浩一(青梅慶友病院リハビリテーション室 室長)

「豊かな最晩年をつくる」

柴田勝博(柴田病院 理事長)

「療養病床でしかできないリハビリテーション」

11:00～12:00 シンポジウム

〔座長〕 山上久(鳴門山上病院 理事長)